

自動運転車両ミコぴよん号（弥彦村）

補助金	補助率	補助上限額
地域公共交通確保維持改善事業費補助金 （自動運転実証調査事業）	：国土交通省 4/5	1億円

事業実施主体

【実施主体】 弥彦村

【全体企画・車両提供】 BOLDLY(株) 【運行委託】 澤福(株)

【デジタルサイネージ・車両ラッピング委託】 大日本印刷(株)

【フィールド提供】 燕市

【住民対応】 弥彦村区長会、弥彦村老人クラブ連合、燕市吉田沿線自治会

地域の課題

- ・ 弥彦村内の公共交通機関について、鉄道の運行頻度が低く、路線バスは廃止となり、補完として広域循環バス「やひこ号」と予約乗合制ワゴン「きららん号」を運行し、村民の移動手段を確保している状況。
- ・ 一方で、やひこ号は幹線を走行するため、バス停までの距離が遠い地域も多く、それを補完すべく運行しているきららん号は、予約件数に対応しきれずお断りが発生している。
- ・ また、やひこ号、きららん号の運行を担うドライバーの高齢化や担い手不足により、持続的な運行体制の整備が急がれる。

事業内容

- ・ 自動運転レベル4実装を目指し、令和6年2月に自動運転車両を導入し、自動運転レベル2での実証調査を実施後、定常運行を開始。
- ・ 令和6年5月より、車両を1台増車し井田ルートを追加。村内に遠隔監視機能を構築し、自動運転事業の拡充と運行体制の整備を進めている。
- ・ 令和7年12月より、土日祝日限定で弥彦ルートを追加し、生活路線だけでなく観光路線としての活用を目指す。
- ・ 降雪時の安定運行に向けたシステムの改善と、雪道における自動運転割合の向上が今後の課題。
- ・ また、地域における利用促進に向け、各集落の寄り合いや老人会、健康教室などへの情報提供や試乗会の実施、新規バス停の設置など継続した取り組みを行う。
- ・ 地元での車内オペレーター(運転手)雇用を進めており、地域経済循環に貢献する。

<運行体制>

<遠隔監視>
弥彦の丘サテライトオフィスの遠隔監視センターにおいて、常時1名が目視で監視。アラートがあった場合、車内オペレーターと連携し処置を行う。

<車内オペレーター>
澤福(株)委託のもと運行し、運行状況を遠隔監視システムに連携。



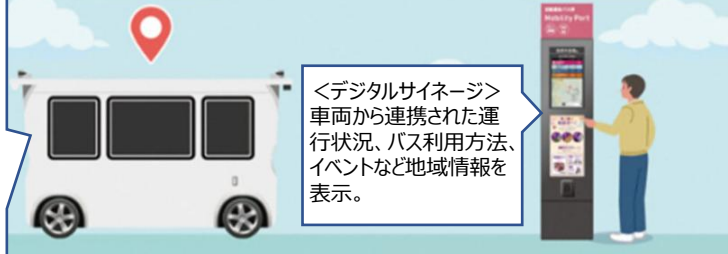
運転席↓

Dispatcher API



自動運転バス MiCa

モビリティポート



<デジタルサイネージ>
車両から連携された運行状況、バス利用方法、イベントなど地域情報を表示。



図は大日本印刷(株)(新潟県弥彦村で自動運転EV「MiCa」の通年運行を開始、最終アクセス日：令和7年2月4日、https://www.dnp.co.jp/news/detail/20173180_1587.html)から取得した図・写真を含んでいます。

<運行路線>



今後の展開

- ・ 観光ルートの運行開始により、新たな観光資源として、事業周知と利用者数拡大に繋げる。
- ・ 村民や観光客のニーズを取り入れながら、「やひこ号」やJR弥彦線は幹線、「自動運転バス」が集落と「やひこ号」やJR弥彦線をつなぐイメージで、オンデマンド交通の導入も含めて全体の効率化と利便性向上を図る。

運行内容等の詳細は[弥彦村ホームページ](#)をご覧ください。